

KWACHA

編集・発行：日本マラウイ協会 g106 東京都港区南麻布 5-10-24 第 2 佐野ビル 702 Tel. 03-3447-2181 Fax. 03-3447-2933

NO 14

95.1.20 現在為替レート US\$1=MK15.3

Kwacha (クワチャ) はチェワ語で「夜明け」を意味します。

バンド前大統領を自宅軟禁

マラウイ警察当局は 1 月 4 日夜、バンド前大統領を自宅軟禁とし、同大統領の側近だったジョン・テンボ元国務大臣を逮捕した。政府の調査委員会が、1983 年 5 月に「交通事故で死亡」とされた 3 閣僚と 1 国会議員の死について、「当時の警察特別機動部隊により殺害、事故に偽装された事件」とする報告書を発表したことに基づくもの。バンド前大統領とジョン・テンボ元国務大臣は同殺害を指示したとされる。(関連記事 2 面)

国際協力フェスティバル参加



マラウイ協会テントの様子

昨年 10 月 1 ~ 2 日にかけて東京・日比谷公園で「国際協力フェスティバル '94」が開かれた。これは外務省の協力で国際協力フェスティバル実行委員会が主催、国際協力事業団、海外経済協力基金、(財)国際協力推進協会などの共催で毎年おこなわれているもの。マラウイ協会は今回初めて参加することとし、昨年 8 月頃から準備を進めてきた。当日は実行委員会側から割り当てられたテントに、マラウイ国内の写真をパネルにしたものを展示し、当協会編集の国情紹介誌「マラウイ、The Warm Heart of Africa 第 2 版」およびチェワ語辞典の販売、本紙および KWACHA News Letter などの配布を行った。また、一般の来訪者からのマラウイ諸事情に対する質問に対応するなど、マラウイの PR に努めた。

国情紹介誌とチェワ語辞典は広尾で訓練中の隊員候補生がグループで訪れ購入したほか、他団体や一般の方も買い求めて行かれた。

今回は初めての参加で、他団体の出展状況と比べると準備不足のところもあった。次回はマラウイの切手展、民芸品展示などを計画し、より多面的なマラウイの紹介に努めたいと考えている。

駐日マラウイ大使交代

1992 年 5 月に着任以来、駐日マラウイ大使を務められた Zimani D. Kadzamira 氏が離日され、代わって T. I. M. Vareta 氏が新大使として来日された。

当協会では Kadzamira 氏の離日に先立つ昨年 11 月 30 日の午後 6 時から、東京・広尾の協力隊事務局 2 階の大会議室に同夫妻を招き送別会を開催した。当協会からは秋山忠正会長をはじめ約 25 名が出席した。

Kadzamira 氏は挨拶の中で、大使館設立以来の当協会の支援を感謝されるとともに、引き続きマラウイ国への協力を要望された。また、出席者との懇談では夫妻ともども楽しかった 2 年余りの滞日経験を披露された。当協会からは送別の品として、完成したばかりの「旅行ガイド マラウイへの旅」や夫人用に英文で書かれた日本料理の作り方の本などを贈った。



Kadzamira 前大使の送別会で

一方、新大使となられた Vareta 氏を招いての歓迎会を 3 月 15 日午後 6 時から、同じく協力隊事務局 2 階の大会議室で開催した。大使館側からは大使館スタッフ 3 名も出席され、当協会からは貝塚専務理事をはじめ仲井儀英 JICA マラウイ事務所前所長など約 30 名が出席した。

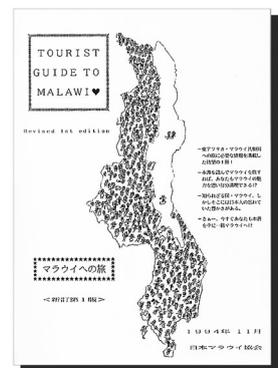
新大使は着任挨拶の中で、マラウイ国に対するこれまでの協力隊員の献身的な活動に感謝するとともに、大使館と当協会の良好な関係が継続・発展することを希望された。

当協会では大使館主催の行事に協力するなど、

引き続き大使館業務の側面的支援に努めていく予定である。

旅行ガイドブック発行

当協会では、マラウイのことを一般の方にも広く知ってもらおうと、協力隊 OB/OG および現地で活動中の隊員からの最新情報をとりまとめた旅行ガイド「マラウイへの旅」を刷新、昨年 11 月 1 日に新訂第 1 版として発行した。体裁は B5 版 単色刷 111 ページ。



「マラウイへの旅 新訂第 1 版」の表紙

本書では日本国内では得られにくいマラウイへの渡航手続き / 準備、マラウイ国内旅行に関する交通機関、宿泊施設、観光スポット等の情報を収録している。さらに、マラウイの生活、風物などを紹介したコラム、旅のエッセイ等を掲載しており、マラウイへ旅行する予定のない人にも興味を持っていただける内容となっている。特に協力隊員留守家族にとっては子息の任地に思いを寄せて読むのに絶好の書と言えるだろう。

当協会では、すでに国立国会図書館をはじめアジア・アフリカ図書館、JICA 図書館、協力隊広尾訓練所図書室などの公的機関に寄贈した。

本書をご希望の方は下記により当協会までお申し込みください。

【申し込み方法】

1 冊につき 1,000 円および送料 240 円を下記の郵便振替口座にお送りください。その際、振込用紙通信欄に「マラウイへの旅 xx 冊希望」と明記のこと。

【郵便振替口座】

00190-7-13125 日本マラウイ協会

【問い合わせ先】

TEL 03-3447-2181

FAX 03-3447-2933



閣僚殺人を指示された警察

イギリス Times

1995 年 1 月 5 日号から抄訳

1983 年に交通事故で死亡したとされる 3 閣僚と 1 国会議員は、実は権力筋の指示を受けたマラウイ警察に乱打され死亡したものであるという調査委員会報告書が 4 日、明らかにされた。

調査委員会議長のハリー・ムテガ氏は「4 人は権力筋の指示を受けた警察によって殺されたということに疑いの余地はない。」と述べた。しかし、だれが実際の責任者であったかは明らかにしなかった。

調査委員会はディック・マテンジェ、トゥワイブ・サンガラ、アーロン・ガダマ、デイビッド・チワンガの 4 氏の死を調査するために 6 ケ月前に設立された。

閣僚たちは銃撃されたとの推測に反して、銃は使われず警察機動部隊が交通事故死を装うために棍棒やハンマー、鋭器を使ったとムテガ氏は述べた。

4 人はゾンバでの国会からの帰りに行方を絶った後、殺された。また 4 人は政府の命令を遂行することを拒んだため、殺されたということが広く信じられてる。

バンダ前大統領から政権を引き継いだムルジ現大統領は、現政府は報告書を精査し、適切な措置を取ると語った。さらに報告書が、4 人は権力筋からの指示で冷血的な方法で殺されたとしたことに満足していると述べた。

バンダと側近を拘束

イギリス Times

1995 年 1 月 6 日号から抄訳

5 日、マラウイの主要都市では、ヘースティングズ・カムズ・バンダ前大統領とその元側近ジョン・テンボが、1983 年の閣僚殺人に関して逮捕されたことを祝い、多くの人たちが道路に躍り出た。

バンダとテンボはその殺人で鍵を握る人物とされてきた。当時、自動車事故で死亡したと言われた犠牲者は、棍棒とハンマーで打たれて死亡し、破壊された自動車の中に置かれたと言われる。

目撃者によると、商業都市ブランタイアではデモ参加者が、バンダがまだ終身党首を務めるマラウイ会議党の建物に火をつけ、ブランタイアの最も大きい町のンディランデにある党の支所を焼き、目につくものは全て盗んだ。首都リロングウェでは平穏であった。

ブラウン・ムビンガンジラ情報相が 5 日語ったところによると、テンボの逮捕は 4 日で、バンダと共に政治的な理由で 4 人の殺人を命令したとする調査委員会報告書が発表された後に行われた。

こう留されているテンボは 5 日、裁判

所に短時間姿を現した。90 歳代で健康状態が良くないバンダは自宅軟禁の状態に置かれている。

情報相によると、ディック・マテンジェ、トゥワイブ・サンガラ、アーロン・ガダマ、デイビッド・チワンガ氏の殺人は、この 4 人が自分のポストを狙っていることを察知したバンダからの指示に基づいて実行された。さらに情報相は、テンボがバンダの外遊中に、当時マラウイ会議党の事務総長で大統領職を引き継ぐために選ばれていたマテンジェ氏の殺人を命令した、とつけ加えた。

報告書の発表の後、前の警察長官マックウィリアム・ルングジも逮捕された。ルングジは関係書類と遺体が発見された自動車を破棄・処分したとされる。退職した警察局長のマクドナルド・カレンバと単にリカオンバとだけ呼ばれる上級警察官がその殺人を指揮したとされ、2 人とも拘束されている。

情報相は、バンダはブランタイアの自宅で軟禁状態にあるが、投獄するのが最も嫌がったのはムルジ大統領であると述べた。

殺人の審問で暴動

イギリス Daily Telegraph

1995 年 1 月 10 日号から抄訳

9 日、ヘースティングズ・バンダ前大統領と 3 人の政治仲間に対する殺人容疑の最終予審の後、裁判所の外で 3,000 人以上の暴動が起きた。

暴動が起きたのはゾンバの南部で、怒ってレンガや石を投げつける群衆を拡散させるために、準軍事警察は空銃を発射し、催涙ガスを使って警した。

3 人と共に告発されたバンダは予審に現れなかった。90 歳代と言われ、健康状態が衰えている彼は、自宅軟禁されたままである。

群衆は裁判所の建物を取り巻き、被告の死刑を叫び、警察とのトラブルは午後いっぱい続いた。

100 人以上が詰め込まれた小さな法廷では、殺人と共謀の容疑の 3 人の被告の弁護士が保釈を求めた。しかし、3 人の保釈申請は却下された。彼らは保釈されるのは民主的な権利であると主張していた。

3 人は手錠をかけられて警察の車に押し込まれ、あざけり笑う群衆がその車にレンガを投げる中、房に戻された。

被告は 1 月 18 日にブランタイアで裁判に立つことになっている。国はバンダも裁判に出るべきと主張している。それはかつては救世主と呼ばれ、今は多くの人に憎まれている前大統領に対する国民の激憤の初めてののはけ口となるからである。

バンダ裁判、延期

日本 Daily Yomiuri

1995 年 1 月 20 日号から抄訳

18 日、マラウイ前大統領、カムズ・バンダの殺人容疑の裁判が開かれるブランタイアの裁判所の外に多くの人が集まった。しかし、彼と弁護士は現れず、裁判は延期された。

先週、保釈を却下されたゾンバの裁判所の外で、怒った群衆が警察に石を投げたような事態をさけるために、警察と番犬が群衆の秩序をコントロールした。

この裁判は国の行方を握っているといわれている。

【注】

その後の情報によると、4 月 24 日にブランタイア高等裁判所で第 1 回の裁判が行われるとのこ

剣道クラブ大会

マラウイ Daily Times

1995 年 1 月 20 日号から抄訳

ブランタイア剣道クラブは、2 月 18 日に第 2 回大会をブランタイア青年センターで開く。

クラブの指導主任である西村典久氏によると、剣道とはどのように行われるかをマラウイ国民に見せるために大会は開かれる。「剣道がこの国で多くの人々によって行われるように、試合がどのように行われるかを見せたい。」と西村氏は述べた。

剣道は日本のスポーツで、2 年前に日本の指導者である中川総氏によって初めてマラウイに紹介された。

西村氏は、クラブには現在、男女合わせて 32 人の生徒があり、さらに成長が見込まれると述べた。

クラブには 2 人の女性指導者がいる。1 人は中央薬局に勤務する深谷典子さんで、もう 1 人はクウィーン・エリザベス中央病院に勤務する今村望さんである。

西村氏は「生徒の上手さに感心している。」と語った。

【注】

西村典久隊員..... 平成 4 年度 3 次隊
中川総 OB 隊員 ... 平成 3 年度 3 次隊
深谷典子隊員..... 平成 5 年度 2 次隊
今村望隊員..... 平成 5 年度 3 次隊



新コーナー

マラウイの生き物たち

昭和 63 年度 3 次隊 松平隆一

今回から数回にわたって、マラウイの動物、鳥、魚、昆虫などの生き物を写真と解説で紹介していきます。皆さんからのご意見・ご感想をお寄せ下さい。また、皆さんからの生き物に関する写真・原稿も募集します。当協会に郵送して下さい。



oe6y (Lion) マラウイでライオンに会うことは非常に珍しい。写真はリウォンデ国立公園で夕暮れに出会った雌ライオン。



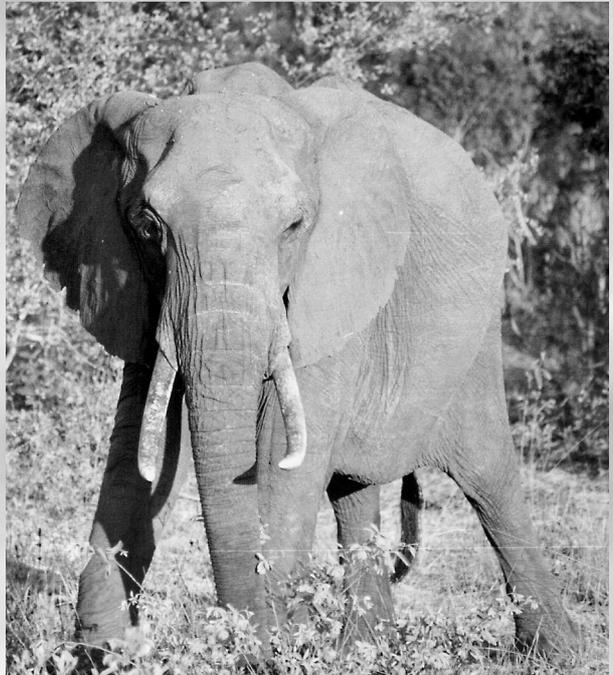
ey to (Impala) リウォンデ国立公園のインバラ。大群を見ることができるが、臆病なのですぐに逃げてしまう。



hS\$(Kudu) レングウェ国立公園のクドゥ。雄は見事にねじれた大きな角を持つ。後ろに居るのはインバラの雌。



FZ2#}(African Buffalo) カスング国立公園産。カスングではバッファローの大群を見ることができる。最も凶暴な野生動物の一つであり、車でも近寄らない方がよい。



32lt 象 (African Elephant) リウォンデ国立公園のアフリカ象。マラウイではリウォンデ、カスング国立公園等で見ることができる。



tF (Hippopotamus) リウォンデ国立公園内のシレ川にて。カバはマラウイ湖、マロンベ湖を含めたシレ川水系でどこでも見ることができる。



i&o (Nyala) マラウイでは南部のレングウェ国立公園にだけ生息する大型の鹿である。雄は立派な角を持ち、雌は体側のしま模様の特徴である(上:雄。下:雌)。

難 民

平成 3 年度 2 次隊 果樹 草地千里

● 難民とは、内戦や天災、政治的混乱や経済的理由で迫害を受ける恐れがあるために国外へ逃亡した人々……』と協力隊派遣前訓練の講義中に寝ぼけ眼をこすりながらヨレヨレの字でノートに書き留めた記憶がある。その時はまだ難民がどんな境遇の人たちなのかピンとこなかった。

訓練を終え、マラウイに赴任し、いわゆる「難民」にお目にかかるには、そう時間はかからなかった。私の任地デッサは国境沿いの町、モザンビーク難民の受け入れ前線基地として知られる。いや、知られていた。というのも、任期中の 1992 年 10 月に停戦協定が結ばれ内戦が終結したため、私が帰国する頃にはデッサからほとんどのモザンビーク難民が本国へ帰還していたからである。



廃墟と化した難民集落

当初「難民」というと悲惨な暮らしを想像していたが、実際に会ってみると何のことはない、そこら辺にいるマラウイアンと何ら変わりないごくフツツの人々だ。自分たちで仮住まいをこさえ、好きなだけメイズを耕作し、リンガラ音楽を口ずさみながら陽気に暮らしている。違うことと言えば、片言のポルトガル語を口走ることと月に何度か救援物資配給の列に加わるくらいであろう。

そんなモザンビーク難民を慰問しに、緒方貞子・国連

● 難民高等弁務官や柿沢弘治・外務政務次官（当時）がデッサを訪れたことは意外と知られていない。経済大国日本からやってきた国連公使や政府高官に向かって『同情するなら金をくれ!』とせびったかどうか定かではないが、モザンビークの目に日本のお偉いさんはどう映ったのだろうか。



この子らもモザンビーク?

任期を終え、日本に帰り、今感じることは、確かに平和な金満国家ニッポンにはいわゆる「難民」は存在せず、せいぜい中国からの偽装難民を追っ払うのが関の山かもしれない。しかし、社会全体を見渡してみると、難民の範疇に属する人種は意外に多いことに気がつく。受験戦争に駆り立てられる受験生難民、不況下の就職難で青息吐息のリクルート難民、痛勤地獄と超勤惨業に苦しめられるサラリーマン難民……と枚挙に暇がない。難民とは、テレビで大袈裟に報じられる凄惨な被災民ではなく、それを眺めて勝手な思いこみをしている我々自身なのかもしれない。

ともあれ、マラウイだけ特別扱いするのは身最厚になるかもしれないが、どうかワндаのような惨劇がマラウイで繰り返されないよう願わずにはいられない。

UInformation CornerU

大懇親会のお知らせ

日本マラウイ協会ではマラウイ独立 31 周年を記念して、平成 7 年 7 月 8 日(土)[予定]に大懇親会を開催します。詳細は追ってご案内しますので、多数のご出席をお待ちしております。

バックナンバー読めます

当 KWACHA 紙と姉妹紙 KWACHA News Letter 紙のバックナンバーが次のところで読めます。

JICA 図書館(国情報ファイルボックス 518)

〒162 東京都新宿区市谷本村町 10-5

国際協力センタービル内

TEL 03-3269-2301 FAX 03-3269-2421

開館時間: 平日 09:40 - 18:00

休館日: 土日祝日、館内整理日(原則として毎月末)

JICA 設立記念日(原則として 8 月 1 日)

(財)日本交通公社 観光文化資料館

〒100 東京都千代田区丸の内 1-8-2 第一鉄鋼ビル 1F

TEL 03-3241-6051 FAX 03-3287-1771

会館時間: 平日 10:00 - 17:30

休館日: 土日祝日、12 月 29 日 ~ 1 月 4 日

日本マラウイ協会ビデオライブラリーについて

日本マラウイ協会では当協会のオリジナルを含むマラウイやアフリカ関連などの作品を収録したビデオテープを、広く会員の皆様に返送費のみのご負担で貸し出しております。ビデオテープは全て VHS で収録時間は 1 本 60 ~ 120 分。好評を博している作品には下記のようなものがあります。会員への貸出しを優先しますが、会員以外の方にも可能な限り貸出しいたします。申込み、問い合わせは葉書で下記の当協会までお願いします。

- (1) The Life in Malawi(協会設立 10 周年作品、'92 年 7 月)
アフリカの関連音楽をバックに、マラウイにおける人々の暮らしぶりなどを紹介。
- (2) MALAWI 1992 Through the Camera
(Malawi Film Unit '92 制作)
表題のニュース番組をはじめ、マラウイ全国の伝統的舞踊などを収録
- (3) MADOLO(Malawi Film Unit '92 制作)
マラウイアンミュージシャン・マドロの演奏、カンダボンゴマン(ザイール)のマラウイ公演などを収録

入会のおすすめ

日本マラウイ協会(Malawi Society of Japan)は日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。趣旨をご理解の上、広く各位の入会を希望します。電話をいただければ入会申込書をお送りしますので、各項記入の上ご返送ください。また、入会金と年会費の合計(個人正会員の場合 1,000 円 + 3,000 円 = 4,000 円)を下記の銀行口座または郵便振替口座へお送りください。(郵便振替口座が安く便利です。)

〒106 東京都港区南麻布 5-10-24 第 2 佐野ビル 702

日本マラウイ協会

TEL 03-3447-2181 FAX 03-3447-2933

三和銀行 東恵比寿支店 普通口座 255739

口座名義人 日本マラウイ協会名誉会長 卜部敏男

郵便振替 00190-7-13125(旧用紙 東京 9-13125)

加入者名 日本マラウイ協会

また、協会規約その他についても上記宛お問い合わせください。